

令和元年度 第1回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和元年6月24日(月) 10:00～11:45
- 場 所 公立鳥取環境大学 小会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、今井正和委員、田中洋介委員、
若原道昭委員、林昭男委員、藤縄匡伸委員、山田修平委員、米田裕子委員
[9名/10名]
北野彬子監事、小谷昇監事 [2名/2名]
- 欠席者 山田憲典委員

冒頭に理事長の挨拶があり、その後、新任の委員がおられるため、新任委員が自己紹介を行った。

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 平成30年度決算について

事務局から平成30年度決算についての説明、小谷監事から監査報告があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・平成30年度決算報告書の人件費について、当初の人員配置計画よりも採用が少ないことは問題ないのか。
→専任教員や非常勤講師でカバーしているため、問題はない。平成30年度末までに人材の確保ができているため、今年度は規模を縮小して採用活動を行う。
- ・支出決算について地域連携・貢献事業費が少ないはなぜか。
→地域連携・貢献事業が少なかったため。また、地域イノベーション研究センターの活動がやや低調であった。
- ・出前授業の経費が県内ではかからないようにしてほしい。
→大学では直接出張費用をもらっていないが、材料費などはかかっているかもしれない。出前授業は無料のスタンスで行っている。
- ・予算の補正を行ったにも関わらず、執行残が多く出るのはなぜか。補正した額が使われていないように見える。
→既存の予算の執行では執行額を押さえておくことが難しく、年明けごろにならないと見通しが見えない。また、執行減の見通しがなかなか出てこないため、結果、当初予算の額ぐらいの執行となり補正額が執行されていないように見えている。なるべく早く当初の執行状況の把握を行い、流用・補正ができるような仕組みを作っていく必要がある。
- ・貸借対照表の負債の部について未払金が多いのはなぜか。
→3月末までに検収を終えているが、請求が4月になるものが計上されている。

(2) 平成30年度事業に係る業務実績報告書について

事務局から、平成30年度事業に係る業務実績報告書について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・自己評価結果概要について、「～しました。」という記述ばかりで、課題の記載はないのか。全てできているように感じる。
- 次回から検討する。

(3) 令和元年度第1回補正予算について

事務局から、令和元年度第1回補正予算について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・環境学部出版書籍は元々何部用意していたのか。
- 一般用に600部用意していた。鳥取県内の図書館には寄贈済で、県内高校の各クラスに配本予定。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学リスク管理規程の制定について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学リスク管理規程の制定について説明があり、本審議会での意見を基に見直し、次回改めて審議することにした。

<主な意見等>

○フローチャート関係

- ・対策本部の設置について「※設置を関係機関へ報告」部分の表現が弱いのではないのか。また、「関係機関」を具体的な機関名を書いた方がよいのでは。
- ・危機事象への対処について、マスコミ対応をどのように行うのか。
- ・「(必要に応じ) 幹部会議においてアフターフォローの検討・実施」が一番最後になっているが、これで終わりではないのではないのか。

○全体

- ・「リスクの発生又は発生するおそれ(職員)」となっているが、職員以外の学生・地域の住民は通報できないのか。ほかの規定に定めてあるのか。
- ・通報窓口は幅広くしたほうが良いのではないのか。

(5) 学長選考会議委員の選任について

(報告事項のあとに、理事長退席の上、審議を行なった。)

副理事長から、学長選考会議委員の選任について説明があり、学長選考会議委員に田中委員が推薦され、承認された。

3 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学内部質保証に関する基本方針について

事務局から、公立鳥取環境大学内部質保証に関する基本方針について報告があった。

(2) 自己点検・評価に係る規程等の改正について

事務局から、自己点検・評価に係る規程等の改正について報告があった。

(3) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

4 閉 会